

2022年度 当麻大会 総評

今年度初めての大会となった当麻大会でしたが、多くの方々の協力のおかげで、コート選手はもちろん、選手を支えるすべての人たちが「試合をできる喜び」を感じることでできた、素晴らしい大会だったと思います。

オフェンスに関しては、力強いドライブでシュートまでもっていく、1on1を中心とするプレーが多く見られました。一人一人のドリブルスキルの高さを感じました。しかし、以下のような課題も見られました。1つ目は、「トラベリング」です。ドリブルの突き出して、軸足がドリブルより先に離れてしまうケースが多くありました。パワーポジションやトリプルスレット、ジャブステップポジションなど、姿勢を意識して繰り返し練習し、正しい突き出しを身につけてほしいと思います。2つ目は、「スペーシング」です。スペースのない狭いところに無理にアタックしてしまい、相手にボールを奪われてしまう状況が多く見られました。もちろん、ドリブラーの状況判断能力も必要ですが、オフボールの4人の動きも重要になってきます。ムービングレシーブやパスの技術を磨き、2on1もしくは、1on0といった数的優位な状況を作り出すことで、シュートの成功率も上がると思います。

ディフェンスに関しては、今後も引き続き正しいマンツーマンを習得していく必要があると思います。大会や練習試合、また5on5のような実践形式の練習もなかなかできない中で、チームディフェンスの練習をしていくのは難しいですが、これからも「オフボールマンへのビジョンの確保と正しいポジショニング」を意識して練習していくことが大切です。まずはボールの有無に関わらず自分のマークマンを自分でしっかりと守ることが基本であり、その上で、2線目や3線目を正しくポジショニングし、ボールに対してみんなで守ることが大切です。その際、相手のドライブに対してヘルプに出たとしても、そのままステイするのではなく、また自分のマークマンに戻るということを徹底してほしいと思います。また、オフボールのマークマンについても、ボールばかり見ていて、自分のマークマンがポジショニングを移動したにもかかわらず、その場にステイしてしまう、ということについても気をつけなければなりません。

最後に、どのチームも選手一人一人の育成に目を向けた声かけや励ましが多く、選手が伸び伸びと思い切ったプレーをしている印象を受けました。試合だけではなく、普段の練習からインテグリティの精神（誠実・真摯・高潔）に基づいた指導がなされているのを感じました。スポーツ大国アメリカでは、「ペップトーク」というコーチング話術があるそうです。もともとは、試合前に緊張し身震いする選手たちに向かい、監督やコーチが心に火をつける激励として使っていたそうです。どの選手にもまだまだ伸びしろがたくさんあると思います。これからは選手が伸び伸びと思いきりバスケットボールを楽しめるように、指導者や育成会が一体となり、よりよい環境づくりを目指して頑張りたいと思います。

以上、今大会の総評とさせていただきます。